



日本最初の文学博士を知っていますか？

和田 壽弘(インド文化学)

最初の文学博士の学位は、明治21年(1888)5月7日に加藤弘之、重野安繹、外山正一、小中村清矩、島田重禮の5人に、6月7日には南條文雄、黒川真瀬、川田剛、中村正直、末松謙澄の5人に授与されました。この内の南條文雄が、私の専門と同じサンスクリット学(梵語学)で、私たちはとても誇りにしています。この南條先生は、私の出身地である岐阜県大垣市の生まれですから、さらに親近感を覚えます。先生は明治9年(1876)にイギリスに渡り、苦学の上英語を習得し、明治12年(1879)にはオックスフォード大学に移り、サンスクリット文献学と比較言語学と比較神話学の分野で当時の世界的な権威であるマックス・ミュラー博士の下で研究しました。明治17年(1884)に帰国して後は、日本のサンスクリット学の表舞台に立ち続けて大きな足跡を残しました。豊かな漢文の素養に裏打ちされた近代的な文献学によって達成された先生の研究は、今なお光を失っていません。私の故郷は、日本最初の工学博士である松本荘一郎、日本最初の理学博士である松井直吉をはじめ多数の博士をも世に送り出しました。大垣は奥の細道の結びの地としても有名ですが、「博士の町」と呼べる程に人材を世に送り出したことを思うとき、身の引き締まる思いがします。故郷の生んだこの先人たちのことを知るにつけて、人は一人で生きているわけではなく、さらに身の周りの人たちとだけ共に生きているわけでもなく、もっと広い世界の人たちと、さらには過去の人たちからも力を受けつつ共に生きていると実感します。どんな人生を送ろうとも、先人たちに恥じることはない生き方をしたいものです。



美術品のコンテクストを知る

専攻：美学美術史(歴史学・文化史学コース)

授業名：美術史演習

美術史実習は、校外に出かけて美術品を実際に見学する授業です。いわゆるフィールドワークの一種で、学内での座学(普通の授業やゼミですね)に劣らず重要な、いやむしろ美術史の学問の根本を成すものとして位置づけられています。

特に特徴的なのは、美術史実習2という授業で、これは前期・後期各一回ずつ、2泊3日のバス旅行を行って、遠方の美術館・博物館・神社仏閣等を見学します。ミニ修学旅行のようなものですね。一日3〜4箇所を回って、朝から晩まで美術品をじっくり見学します。美術史を目指す学生にとっては、厳しい修行の



時間でもあり、しかし美術品に集中できる至福の時間でもあります。

今年の前期は、和歌山県の熊野地方を回りました。特に熊野三山といわれる、本宮、新宮、那智社を中心にめぐりました。これらの神社には古神宝などが収蔵されておりますが、より興味深いのは、ここが美術の現場となっていることです。例えば「一遍聖絵」という鎌倉時代の絵巻物には、主人公の一遍上人がこれら三社を訪問した様子が描かれ、鎌倉時代の社殿の姿が画面に克明に描かれています。

また那智社は那智の滝が有名ですが、東京の根津美術館には鎌倉時代に描かれた「那智滝図」という作品があり、日本の風景画の傑作として知られています。これら美術品が生まれる元となった風景を実際に訪れて確認することが出来たのは大きな収穫でした。作品そのもの（テキスト）だけでなく、それを支えるコンテクストを知ること、美術史にとっては重要な作業であり、今回の旅行はコンテクスト中心に見学したと言えるでしょう。 [伊藤 大輔 (准教授)]

授業紹介—File45

本と地域から学ぶ社会学 —丹辺ゼミの場合

専攻：社会学（環境・行動学コース）

授業名：社会学演習

社会学のゼミと言っても、いったい何をするのか想像しにくいかもしれません。講義とは違って、教科書や先生が作成したレジュメもありません。

私たちのゼミには、2年生から4年生まで20人ほどの学生が所属しています。ゼミの時間は主に社会学の文献を読みます。レジュメを作るのも司会をするのも学生です。著者の理論に足りない視点は何か、それを発展させるとどのようなことが言えるのか、身のまわりの社会活動などを想起しながら皆で議論していきます。

こうした文献ゼミに加えて、2～3年生は前期にグループ研究を行ないます。昨年度と今年度は刈谷市を対象に、各班に分かれて調査を行なっています。後期になると個人研究が始まります。先生の関心に近いテーマやグループ研究と関連のあるテーマを選ぶ人もいれば、引きこもり支援や自助組織を取り上げる人もいたりとさまざまです。2年生のうちからひとりで調査を始めることで、調査の進め方や分析の仕方など一人ひとりのスキルを高めていくことができます。先生や先輩方も相談に乗って下さり、アドバイスをもらうことができるので心強いです。このように文献ゼミ、グループ研究、個人研究で経験を積んだ後、4年生になると卒論に取り組むこととなります。

大変そうに見えるかもしれませんが、学生どうし、先輩後輩、先生とも皆とても仲がよく、助け合いながらお互いを高め合うことができるゼミです。 [松山 純佳 (学部4年)]



(2011.8.27 刈谷市小垣江地区お祭りの「おやじの会」活動)

大変そうに見えるかもしれませんが、学生どうし、先輩後輩、先生とも皆とても仲がよく、助け合いながらお互いを高め合うことができるゼミです。 [松山 純佳 (学部4年)]

最近の文学部

名大文学部でもらえる学位って？

私が大学に入ってその存在を初めて具体的に知ったのは「学位」というものです。学部4年の卒業で学士、その後2年で修士、そしてさらに3年（もしくは+数年）で博士。文系なのに「ドクター」になってしまうのです。進学率が昔よりずっと高くなったとはいえ、提出された学位論文を手にするたびに、その分厚さとずっしりとした重みが厳しい勉学の年月を物語っていることを痛感します。 (加藤)

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/> まで (『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)